

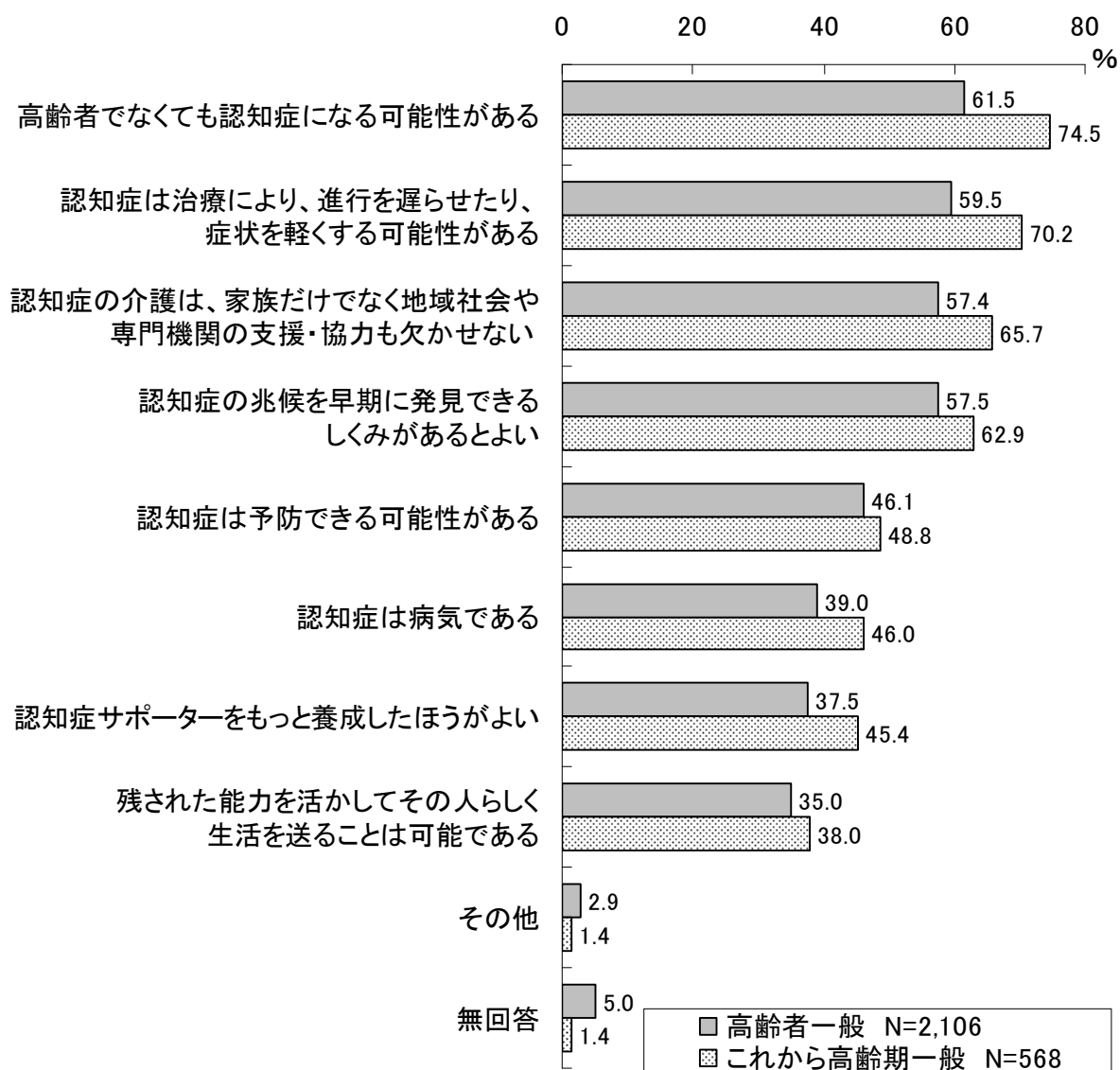
7. 認知症

(1) 認知症に対するイメージ

ア. 認知症に対するイメージについては、「高齢者でなくても認知症になる可能性がある」「認知症は治療により、進行を遅らせたり、症状を軽くする可能性がある」の割合が高く、それぞれ、高齢者一般で6割程度、これから高齢期一般で7割強となっている。

イ. 次いで「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」、「認知症の兆候を早期に発見できるしくみがあるとよい」の割合が高く、高齢者一般の6割弱、これから高齢期一般の6割強となっている。

ウ. また、多くの項目について、高齢者一般よりもこれから高齢期一般の方が1割程度高い割合となっている。

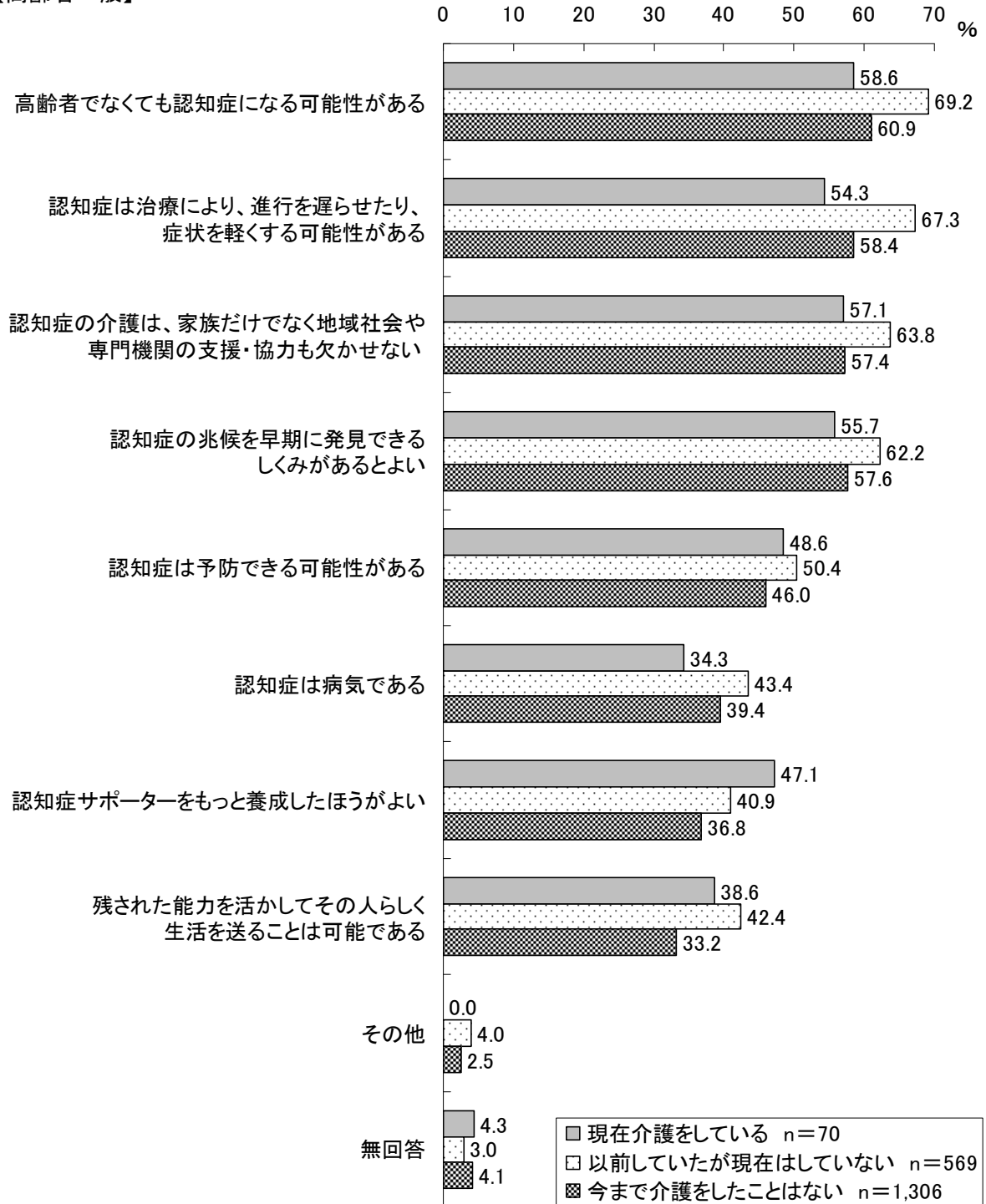


図表 59 認知症に対するイメージ (複数回答)

エ. 高齢者一般の認知症に対するイメージについて、家族介護経験の有無別にみると、『以前していたが現在はしていない』という方が、ほとんどの項目で高い割合となっている。

オ. 『現在介護をしている』という方は「認知症サポーター（認知症の方をサポートする人）をもっと養成したほうがよい」と回答する割合が高い。

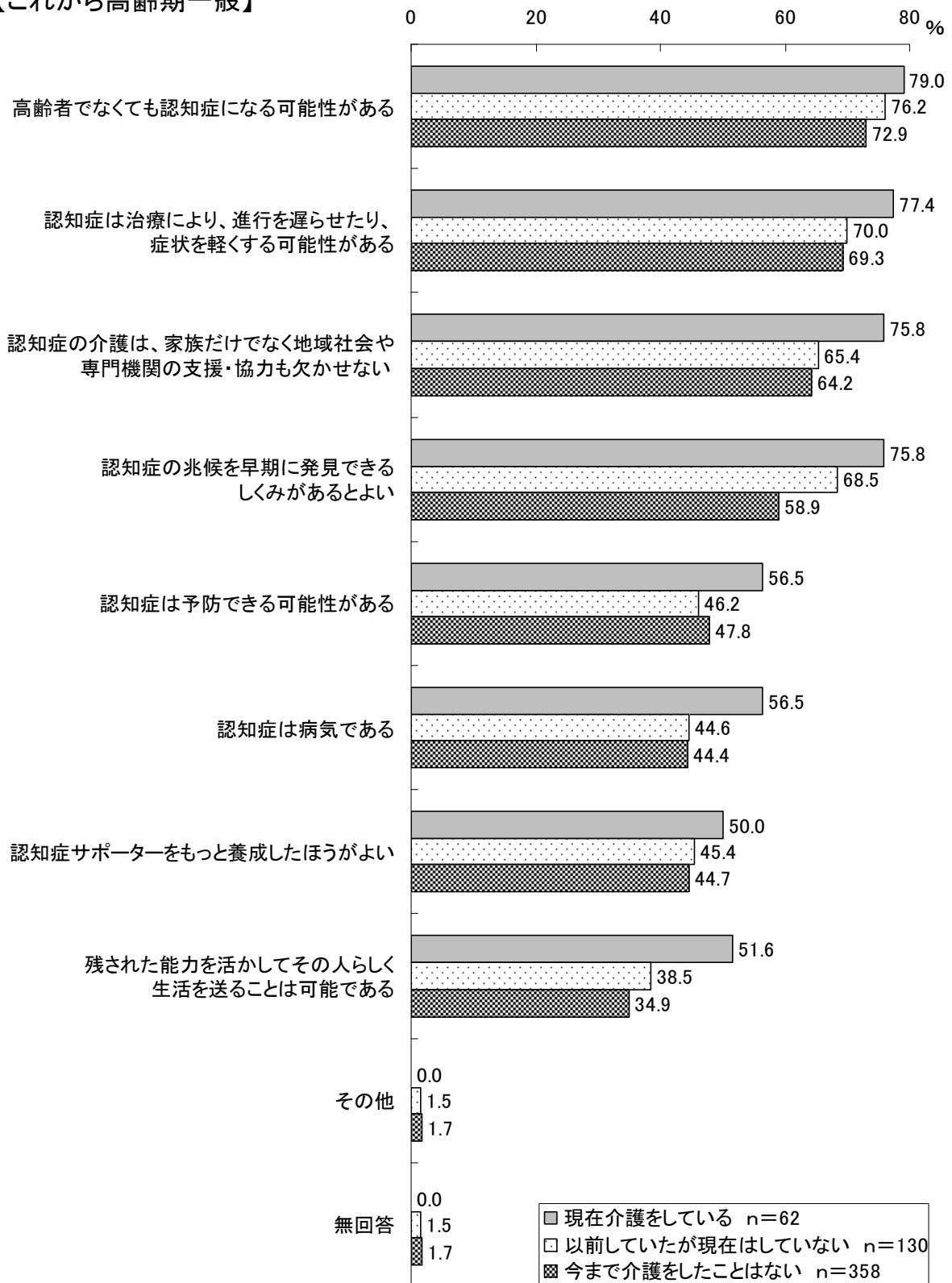
【高齢者一般】



図表 60 家族介護経験の有無×認知症に対するイメージ／高齢者一般（複数回答）

カ. これから高齢期一般の認知症に対するイメージについて、家族介護経験の有無別にみると、『現在介護をしている』という方が各項目とも高い割合となっている。

【これから高齢期一般】



図表 61 家族介護の有無×認知症に対するイメージ/これから高齢期一般 (複数回答)